３節 国際放送

国際放送は，世界の人々の日本に対する理解を深め，国際的な文化・経済交流の発展を促し，ひいては国際親善と人類の福祉に貢献することを目的としている。

テレビ国際放送（NHKワールドTV）は，95年４月から，北米，欧州向けに開始した。98年４月からは，デジタル化によって，アジア・太平洋地域にも日本語，英語で１日18時間の放送を開始し，10月からは，ほぼ全世界向けに拡大した。

99年４月からは，１日の放送時間を19時間とし，10月からは24時間放送を開始した。

01年８月には，衛星を変更して，それまで受信できなかったアフリカ南部地域でも視聴が可能となった。08年10月に，外国人向け放送のNHKワールドTVは英語化率100％を達成した。また，邦人向け放送のNHKワールド・プレミアムは国内放送のニュース・情報番組に加え，娯楽を供する番組など，より多彩な番組編成を実現した。

09年２月に，英語ニュースを大幅に拡充し，国際放送局に新しく作ったニュース専用スタジオから24時間毎正時の編成とした。また，インターネットで24時間ライブストリーミングを開始し，ニュースと番組を放送と同時に配信している。同年12月，NHKワールドTVのHD（ハイビジョン）での放送を開始した。

16年７月，基幹衛星の伝送方式を変更し，NHKワールド・プレミアムのHDでの放送を開始した。

17年３月末現在，２億9,000万世帯が受信可能である（一部時間視聴可能世帯を含む）。

NHKの短波によるラジオ国際放送は，35年に「海外放送」として開始した。戦後に一時中断，52年に「ラジオ日本」として再開した。

日本語と英語で放送する「全世界向け放送」（ジェネラル・サービス，一般向け放送）と，地域ごとの言語で放送する「世界各地域向け放送」（リージョナル・サービス）と合わせて，07年度前半期までは22言語で，１日65時間放送していたが，海外発信が欧米を中心に短波放送からテレビにシフトしていくのに伴い，07年度後半期より，短波放送の送信地域と送信時間を見直した。「全世界向け放送」を廃止して，地域に応じた効率的な情報発信を進め，ドイツ語，イタリア語など４言語を廃止し，18言語に縮小した。

一方，短波放送以外の新たな放送サービスとして，外国の放送事業者などが所有する送信施設を借用し，中波・FM波による放送サービスを拡充している。また，06年度後期より，衛星を使用したラジオ国際放送を行っている。

国際理解の促進を図るとともに放送番組を補完する観点から，インターネットにより国際放送のニュース等の提供も積極的に行っている。

放送番組の編成

国際放送番組の編成は，年度ごとに「編集の基本計画」で編成方針，重点事項など基本事項を定める。この基本計画に基づき「放送番組編成計画」を策定し，新番組の概要，編成時間などの具体的な計画事項や，放送番組時刻表を定めている。

国際放送番組審議会は，「基本計画」の諮問に対して答申するなど，放送番組の適正化を図るため必要な事項を審議し，番組の編成や制作に役立てることを目的としている。

Ⅰ．国際放送の放送番組編集の基本計画

海外の視聴者からの投書，番組内容についてのモニターや短波の受信状況についての技術モニターの報告，各種の調査などを参考にしつつ，16年度の番組提案を基に16年度の番組編成を検討し，「平成28年度国際放送番組編集の基本計画」の原案を策定した。原案は15年12月中旬の国際放送番組審議会に諮問し，了承するとの答申を受け，16年１月中旬の経営委員会で議決承認された。

以下に原文どおり掲げる。年表示は西暦にし，記号などは本書の方式に合わせた。

１．編集の基本方針

国際社会では，政治，経済，安全保障，人権などをめぐり，深刻な対立と新しい秩序への模索が同時進行しています。情報があらゆるメディアを通じて，瞬時に地球を駆けめぐる今日，日本の公共放送NHKが発信する国際ニュースへのニーズが高まっています。また，東京オリンピック・パラリンピックを４年後に控え，海外発信のさらなる強化も求められています。

「NHKワールド」は，国際放送が果たすべき責務と期待される大きな役割を自覚し，NHKの総力を挙げて，正確で客観的なニュースや，幅広いコンテンツを発信することで，世界から選ばれ，信頼される国際放送を目指します。

外国人向けテレビ国際放送「NHKワールドTV」は，NHK３か年計画の２年目にあたる16年度，さらに骨太な編成で，成長をいっそう確かなものにします。毎正時に放送している基幹ニュースを北米やアジアをより意識した構成にするなど刷新します。さらに，新たなインタビュー番組を開発し，大型ニュース番組と連続して編成することで，平日夜間を強化します。また，国内放送との連携をさらに強化し，NHKならではの大型コンテンツや，日本各地の魅力を紹介する番組を積極的に発信します。

在外邦人向け日本語チャンネル「NHKワールド・プレミアム」は，ニュースや情報番組を通じて，日本のいまを伝えます。地震，津波などの自然災害や，事件･事故などの緊急事態発生時には，迅速に国内ニュースの同時放送をおこない，正確な情報を提供します。

ラジオ国際放送「NHKワールド･ラジオ日本」は，ニュースのほか，産業・技術・文化・芸術など多彩な情報，全国各地の話題などを，日本語を含む18の言語で全世界に発信します。また，在外邦人のライフラインとして安心・安全を支える情報を届けます。

インターネットサービス「NHKワールド・オンライン」では，ビデオ・オン・デマンド サービスの大幅な拡充や，放送番組を同時提供するアプリの改善・開発を進めます。また，ホームページをさらに使いやすく改善するとともに，SNSを積極的に活用するなど，インターネットを通じて，「NHKワールド」をさらに身近なものにします。

２．編集の重点事項と各波の編集方針

（１）テレビジョン国際放送

○NHKワールドTV（英語・外国人向け放送）

・ニュースの充実と平日夜間の強化

毎正時に放送している基幹ニュースを，海外からのリポートや解説を増やすなど，より本格的な国際ニュースとして刷新します。また，平日午後８時台にインタビュー番組を新設することで，大型ニュース番組との相乗効果をはかり，１時間トータルで見てもらうことを目指します。

・国内放送と国際放送のさらなる連携

世界中に保存されている貴重な映像記録で激動の100年を描いた大型ドキュメンタリーシリーズや，NHKの地域放送局が制作した日本各地の魅力を紹介する番組など，国内放送の良質な番組を海外発信し，NHKならではのコンテンツ力を示すことで，国際的なプレゼンスを高めます。

・日本への関心を高める番組の編成

東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年に向けて，日本の産業や科学技術を紹介する番組を充実・強化するとともに，NHKのネットワークを活用した新しいタイプの観光情報番組を開発します。また，日本文化を楽しみながら日本語を学習することができる番組を新設します。

〔放送時間〕

世界全域…１日23時間以上が基本

〔放送番組の部門別編成比率〕

定時番組について，報道番組60％以上，インフォメーション番組25％以上を編成します。

○NHKワールド・プレミアム（日本語・在外邦人向け放送）

・日本のいまを伝えるニュース・情報番組

週末午前のニュース･情報番組を充実させます。１週間のニュースを伝え，関心が高いテーマをわかりやすく解説する番組，経済情報番組や討論番組，東日本大震災の被災地を応援する番組など，日本のいまと未来を考える番組を放送します。

このほか，世界の動きを伝えるニュース番組や，日本列島各地の表情を伝える番組などを通じて，最新情報を届けます。

・「安全」と「安心」を支える情報

海外で暮らす日本人や旅行者の重要なライフラインとして，内外で起きた大規模な地震，津波などの自然災害や，事件・事故などの緊急事態発生時には速やかにニュースを特設するなど，迅速かつ的確な情報の提供に努めます。

〔放送時間〕

世界全域に向けた同一の番組編成…１日およそ５時間

北米・欧州地域に向けた，現地の生活時間にあわせた番組編成…各１日およそ５時間

〔放送番組の部門別編成比率〕

定時番組について，報道番組80％以上，インフォメーション番組５％以上，娯楽番組を若干編成します。

（２）ラジオ国際放送

○NHKワールド・ラジオ日本

（多言語・外国人向けサービス）

・地域の特性に応じた多様な放送サービスの推進

日本の最新情報や話題を，17の言語を通じて全世界にわかりやすく伝えます。各地域の好適聴取時間や受信環境に合わせ，放送枠を新設・移設します。衛星ラジオの放送時間拡大をはじめ，中波・FM波・インターネットなど多様なメディアを活用し，リスナーのさらなる獲得を目指します。

・ニュース・番組の充実

災害や有事の際には機動的に対応し，最新のニュースを的確に伝えます。また，番組では，日本各地の産業や技術を紹介するほか，さまざまな分野で活躍する人物に迫る新企画をスタートさせます。

〔放送時間〕

17言語・合計…１日あたり40時間30分

〔放送番組の部門別編成比率〕

定時番組について，報道番組60％以上，インフォメーション番組25％以上を編成します。

（日本語・在外邦人向けサービス）

・最新のニュース・多彩な番組の提供

国内の主要ニュース，情報番組，スポーツ中継，音楽番組，ラジオドラマなどを国内と同時に放送し，日本の情報を多彩に伝えます。

〔放送時間〕

日本語…１日あたり24時間

〔放送番組の部門別編成比率〕

定時番組について，報道番組60％以上，インフォメーション番組25％以上，娯楽番組を若干編成します。

（３）インターネット

○NHKワールド・オンライン

・ビデオ・オン・デマンド サービスの大幅な拡充

15年度に13番組で開始した「NHKワールドTV」のビデオ・オン・デマンド サービスは，対象番組を20程度に増やして視聴者の期待に応えるとともに，「NHKワールド」への接触機会をより拡大します。

・視聴アプリの機能改善と新デバイスへの対応

「ワールドTV」視聴アプリの機能を見直し，利用回数や利用時間の増加につながる改善を実施するほか，スマートフォン・タブレット端末以外にも，普及が進む新しいデバイスを対象としたアプリ開発に取り組みます。

・ホームページの利便性をより向上

「NHKワールド」ホームページを訪れる利用者の関心に応じて，同一ジャンルの番組情報をまとめて紹介するポータルサイト機能を整備し，利用者が目的のコンテンツに簡単にたどり着けるよう，サイトの改善をさらに進めます。

・多言語サービスの充実

14言語で提供してきたテキストニュースに新たに３言語を加え，全ての外国語ホームページでテキストと音声によるニュースを提供します。「ラジオ日本」の番組広報や放送中・放送後の音声提供を引き続き行うとともに，お便り・投稿募集などリスナーとの結びつきを強める場として積極的に活用します。

・SNSを活用した情報発信強化

世界のインターネット利用者の間でコミュニケーションや情報収集のためのツールとして定着したSNSに向けて，「NHKワールド」のニュースや番組情報を発信します。SNS活用の取り組みを通じて「NHKワールド」のファンを増やし，ホームページのアクセス増加につなげます。

Ⅱ．国際放送番組審議会

16年度は11回開催された。会長の諮問に応じて，「平成29年度国際放送番組編集の基本計画（案）」について審議し答申したほか，定時番組，特集番組などについても審議し放送番組の適正化を図った。

16年度の主な審議内容は次のとおり。

４月　NHKワールドTV『NHK NEWSLINE』の新コーナー<Eye on Asia>，『Direct Talk』『J-Trip Plan』『A Century on Film』について

５月　「NHKの国際放送と番組審議会の役割について」「審議会での意見が国際放送に反映された事例について」の報告

６月　伊勢志摩サミット，バラク・オバマ大統領広島訪問関連ニュースと番組から『NEWSROOM TOKYO』『NHK NEWSLINE』『RADIO JAPAN News（English）』について

７月　NHKワールドTV『NHK NEWSLINE FOCUS』から東日本大震災関連番組<Five Years, Five Stories><The Gate – A Pacific Journey>について

９月　NHKワールドTV『NEWSROOM TOKYO』長崎原爆の日関連オペレーション，『NHK NEWSLINE』長崎関連ニュース企画について

10月　NHKワールドTV『GRAND SUMO Highlights Prologue』『GRAND SUMO Highlights』『Sumopedia』について

11月　『NEWSROOM TOKYO』<OITA BRINGING BACK THE TOURISTS>，『NHK NEWSLINE』<SPILIT OF COMMUNITY>，<STUDYING THE SCARS>，<LOVE FOR A LOCAL ICON>，『My Small Steps from HIROSHIMA』について

12月　『Face to Face』『NEWSROOM TOKYO』，『NHK NEWSLINE』「平成29年度国際放送番組編集の基本計画（案）」(諮問・答申)，NHKワールドTV『Asia Insight』について
１月　NHKワールドTV『NHK NEWSLINE FOCUS』<Panama Papers>，『Inside Lens』<CHILDREN'S TEARS>，<Rising From Silence>について
２月　NHKワールドTV『Searching for Hope & Happiness』『Reading Aloud for Peace』について
３月　NHKワールドTV　ETV特集を英語化した『Water，Not Weapons』『Last Doctor Standing』について

番　組　制　作

Ⅰ．テレビジョン国際放送

（１）外国人向け放送

外国人向け放送において，国際放送独自制作の番組として，毎正時放送の基幹ニュースを，より本格的な国際ニュースとして刷新した『NHK NEWSLINE』，国内外のビジネスリーダーや，さまざまな分野のキーパーソンにインタビューする『Direct Talk』，日本各地の実用的な観光情報を紹介する『J-Trip Plan』，日本のビジネス最前線を伝える『Biz Buzz Japan』，『映像の世紀』と『新・映像の世紀』を再編集して英語化した『A Century on Film』，『白熱教室』を英語化した『First Class』を，年度後半から大相撲のダイジェスト番組『GRAND SUMO Highlights』を新設した。

また，特集番組として，『ムスリム・ツーリスト，伊勢志摩へ行く！』『NEWSLINE FOCUS～東日本大震災５年　５つの物語』『Tidy Up with KonMari！～近藤麻理恵の世界大片づけ！』『The Last Lesson of the Ninja Master』『広島平和記念式典』『長崎平和祈念式典』『My Small Steps from Hiroshimaこうしてヒロシマは世界発信されていった～小倉馨の日誌より』『WASHOKU on the World Stage – Los Angeles』『ばあちゃんアイドル，シンガポールを目指す！』『草間彌生　わが永遠の魂』などを放送したほか，キャンペーンとして，伊勢・志摩，九州・熊本，沖縄，北海道・ニセコ，南関東３県など，日本各地の魅力を紹介する集中編成を行った。

（２）邦人向け放送

１日およそ５時間『NHKニュース　おはよう日本』『NHKニュース７』『ニュースウオッチ９』『クローズアップ現代＋（プラス）』『国際報道2016』などの報道番組に加え，『NHKのど自慢』『みんなのうた』などの娯楽番組を，国内と同時に放送した。

また，東日本大震災や熊本地震からの復興，伊勢志摩サミット・オバマ米大統領広島訪問，英EU離脱を問う国民投票，相次ぐ台風災害，米大統領選挙，日ロ首脳会談，北朝鮮ミサイル発射など，内外の重要ニュースを，在外邦人に迅速に提供した。

Ⅱ．ラジオ国際放送

16年度の外国人向け放送の放送時間は，17言語合わせて，１日当たり40時間30分。邦人向け日本語放送の放送時間は，１日当たり24時間。外国人向け放送と邦人向け放送を合わせると，18言語で，１日延べ64時間30分の放送を実施した。

（１）外国人向け放送

16年度も９分と14分のニュース枠を継続し，東日本大震災や熊本地震からの復興，伊勢志摩サミット・オバマ米大統領広島訪問，英EU離脱を問う国民投票，相次ぐ台風災害，米大統領選挙，日ロ首脳会談，北朝鮮ミサイル発射など，内外の重要ニュースを，日本の視点を踏まえて伝えた。なお，『英語ニュース』『スペイン語ニュース』『中国語ニュース』『ハングルニュース』『ポルトガル語ニュース』はラジオ第２でも放送した。

『ラジオジャパンフォーカス』では，日本の地場産業や先端技術を紹介する「Made from Nippon」や，さまざまな分野で活躍する人へのインタビュー「Meet the People」を新設した。英語放送では，リスナーとの交流を目指す『Friends around the world』をラジオ第２と同時放送した。

（２）邦人向け放送

邦人向け放送においては，国際放送局が制作する日本語ニュースや海外安全情報に加え，国内の主要ニュース，時事番組，スポーツ中継，音楽番組，ラジオドラマなど，多彩な番組を国内と同時放送し，リアルタイムで内外の最新情報を伝えた。このほか『NHKのど自慢』『ひるのいこい』『ちきゅうラジオ』『大相撲中継』『第67回NHK紅白歌合戦』等をラジオ第１と同時放送した。また，特集番組としてFM放送と連携した『音楽遊覧飛行ワールドワイドⅣ』などを放送した。

Ⅲ．インターネット展開

◇概況

国際理解の促進を図るとともに放送番組を補完する観点から，インターネットサービス「NHKワールド・オンライン」では，国際放送のニュース・番組情報等を提供するとともに，NHKワールドTVおよびラジオ日本の放送中・放送後配信を実施するなど，積極的な情報発信を図っている。

16年度のNHKワールド・オンラインのホームページへの週間平均訪問者数は32.2万人，訪問者当たりの週間平均滞在時間は22分７秒であった。

１．テレビ関連サービス

（１）ホームページでのサービス

放送法第20条第２項第２号に基づく受信料財源業務として，ホームページでNHKワールドTVの英語ニュースや番組情報の掲載，放送中・放送後の番組配信を実施した。

16年度は，新番組は『Direct Talk』『GRAND SUMO Highlights』『HAIKU MASTERS』『Inside Lens』『Japan-easy』，継続番組は『Japanology Plus』『TOKYO EYE 2020』の独自ホームページをそれぞれ新設するとともに，すべての定時番組・特集番組の内容をホームページで紹介した。伊勢・志摩，九州・熊本，沖縄，南関東３県をテーマとした集中編成を紹介するホームページも特設した。15年度より開始したビデオオンデマンド（VOD）は，16年度は28番組を，主に放送後２週間の見逃しサービスとしてホームページとアプリで提供した。

また，日本料理に関心のある番組視聴者やホームページ訪問者の利便性向上を図るため，６月に料理や食に関連するテレビ・ラジオ番組の情報や料理レシピなどを横断的に紹介するポータルページ「JAPANESE FOOD」を新設した。

（２）モバイルアプリでのサービス

10年２月より，スマートフォンやタブレット端末向けに，NHKワールドTVの放送同時配信を視聴できるアプリを提供している。16年６月，VODを視聴できる機能をアプリに追加した。

（３）その他のサービス

英語ニュースのTwitter配信を４月に開始した。番組では『HAIKU MASTERS』がTwitterとFacebookで，『J-Trip Plan』がFacebookで，それぞれ15年度内から先行して番組情報を発信している。

２．ラジオ関連サービス

（１）ホームページでのサービス

放送法第20条第２項第２号に基づく受信料財源業務として，ホームページでラジオ日本のニュースや番組情報の掲載，放送中・放送後の番組配信を実施した。

サービスの概要は次のとおりである。

◯ニュース音声（18言語）
・放送中配信，放送後配信
・ポッドキャスティング（日本語を除く）
◯テキストニュース（16言語）
・アラビア語，ベンガル語，ビルマ語，中国語，フランス語，ヒンディー語，インドネシア語，ハングル，ペルシャ語，ポルトガル語，ロシア語，スワヒリ語，スペイン語，タイ語，ウルドゥー語，ベトナム語
・16年４月より，テキストニュース配信をすべての外国語サービスで実施している。
・災害等緊急時は随時更新
◯ニュース動画（中国語）
・１日１回（月～金）更新
◯企画動画
・中国語　週２回（火・金）更新
・ポルトガル語　週１回（金）更新
◯番組音声（18言語）
・放送中配信，放送後配信
・公開期間は放送後１週間
・日本語は『海外安全情報』（放送後），『ちきゅうラジオ』（放送中）のみ
◯番組特設ページ（17言語）
・『やさしい日本語』
・『Let's Cook Japanese』（料理番組）
・『Welcome to Amazing Japan！』（旅番組）
・『物語で楽しむ日本の美』
・『ラジオパーソナリティーコンテスト』（中国語）
・『ロシア語戦後放送再開60周年』（ロシア語）
・『ベトナム語放送開始55周年』（ベトナム語）

（２）モバイルアプリでのサービス

12年度より，スマートフォンやタブレット端末向けに，日本語を除く17言語のニュース・番組を放送中・放送後に聴取できるアプリを提供している。

（３）その他のサービス

NHK読み上げ版携帯サイトに英語，中国語，ハングル，ポルトガル語，スペイン語でニュースを配信している。

また，Twitterで13年10月からポルトガル語，

16年７月からスワヒリ語それぞれの番組情報を発信している。

広報・反響

Ⅰ．広　報

◇概況

NHKワールドTVについては，国内外に向けたさまざまなプロモーションも展開した。ラジオ日本では，海外でのイベント開催に加え，ネット広告も実施した。

◇PR

１．NHKワールドTV関連の主な動き

５月のG７伊勢志摩サミットの際には，プレスセンターにNHKワールドTVが視聴できるモニターを設置したほか，関連ニュースや番組を広告も活用して広報周知した。９月から10月にかけてインドネシアで，10月から12月にかけてシンガポールで，イベント出展，交通広告，ネット広告などを連動させたキャンペーンを実施した。

17年３月には東日本大震災から６年の関連番組や，アニメ番組『龍の歯医者』などのPRを行った。また，７月場所からハイライト番組の放送が始まった大相撲は年間を通して周知広報に注力した。訪日外国人に向けた広告の機内誌等への掲載や国内空港での看板の掲出により，外国人向けテレビジョン国際放送やその視聴用アプリを紹介するPRを継続的に実施した。

そのほか，国際放送，ホームページ，定例会見による報道発表，印刷物等により，番組情報の周知を実施した。海外関係公的機関等に対して，番組表・パンフレット等を提供した。

２．ラジオ日本関連

（１）イベント関連

４月　ロシア語放送戦後再開60年を記念して，30日にモスクワで，日本の家庭料理と日本語をテーマにしたイベントを実施。「日本の家庭料理を作ろう」出演者で料理研究家の渡辺あきこさん，「やさしい日本語」出演者のロシア人声優・ジェーニャさんをゲストに迎え，参加者に手巻きずし作りを体験してもらいながら，料理や食事で役立つ日本語のミニ講座も実施し，ラジオ日本をPRした。

６月　ベトナム語放送戦後再開55年にあたり，11日，12日に東京都渋谷区で開催されたベトナムフェスタにブース出展し，公開収録を実施。ベトナムの人気歌手をゲストに迎えたトークショーや，来場者に日本へのメッセージを書いてもらうなどの企画と共に，ラジオ日本をPRした。

10月　ペルシャ語放送戦後再開25年関連企画として，１日，２日にお台場で開催された国際協力イベント「グローバルフェスタJAPAN」に初出展。２日間で10万人が訪れる会場にペルシャ語放送のブースを開設し，ペルシャ語放送25年の歩みを紹介する映像や，ペルシャ文化の紹介を行うとともに，ステージではペルシャ音楽のライブショーを行い，多くの来場者と交流を深めた。４日には，日ソ国交回復60年を記念して，東京外国語大学で，日本とロシアの学生たちが両国の未来について語り合う催し「若者が語る日ロの未来」を主催するとともに，ロシア語放送を行った。

11月　５日，東京・千代田放送会館にて，第３回「中国語　ラジオパーソナリティーコンテスト」を実施し，公開収録を行った。コンテストには，日本人と中国人のペア16組が参加。会場には200人の観覧者が集まり，NHKワールドの広報ビデオの上映や，ラジオ日本アプリの紹介などのPRも行った。６日，NHK文化祭でFM番組と共同で『音楽遊覧飛行ワールドワイド』の公開収録を実施。アプリの宣伝とダウンロード方法の案内を行った。

２月　ロシア語放送戦後再開60年関連企画の一つとして，26日に，日本語を学びながら茶道を体験するイベントを実施。新江戸川公園内の茶室，松聲閣に表千家講師の白井宗智先生と「やさしい日本語」出演者のロシア人声優・ジェーニャさんをゲストとして迎えて行った。参加者は，簡単な日本語会話を学んだあと，和菓子や茶の湯を体験するなどして，日本文化への理解を深めた。イベントでは，ラジオ日本の番組やアプリの説明も行い，参加者の関心を集めた。

３月　埼玉県川口市で開催されたクルド人の新年祭をペルシャ語放送で取材。NHKさいたま局と協力し，NHKのPRを行うとともに，営業支援活動「ターゲット80」とも連動した。

（２）インターネット

４月にスワヒリ語のニューステキストの公開をNHKワールド・オンラインホームページで開始。これによりラジオ日本のニューステキストを日本語を除く全17言語で見ることができるようになった。

７月にはラジオ日本のSNS展開の一環としてスワヒリ語独自のツイッターアカウントを開設。ホームページと併せてニュースや番組情報の発信を始めた。

11月に中国語放送で実施した「中国語　ラジオパーソナリティーコンテスト」のイベントに先立ち，９月に番組専用ホームページを開設。出場16組のパフォーマンス映像を公開し，国内外の聴取者によるウェブ人気投票を行った。総投票数はおよそ8,500件だった。

10月，タイのプミポン国王の逝去を受けてタイ語放送では特設ホームページを設け，タイ語で放送した特別番組をホームページでも配信した。

このほかロシア語放送戦後再開60年，ベトナム語放送戦後再開55年にちなむ特設ホームページを年度を通して開設し，周年記念特集番組に関連する情報や写真を掲載した。

３．NHKワールド全般　紙媒体等の展開

（１）紙媒体

NHKワールドの役割やサービス内容を紹介する「ガイドブック（英語・日本語）」，NHKワールドTVの全番組を放送時刻表と共に紹介するパンフレット，NHKワールドTVを紹介するチラシ（英語・日本語），ラジオ日本の周波数表，ラジオ日本の番組内容などを紹介するチラシ（17言語）を発行，国内外の政府機関・民間企業・日本人会などに送付し，PRに努めた。なお，すべての印刷物データはウェブサイトにて公開し，ダウンロードできる。

（２）「第35回NHKワールドカレンダー」フォトコンテスト

15年度に引き続きNHKサービスセンターと共催した。開催告知のPRスポットが国内波で編成され，16年度には，3,270点の応募があり，28点を受賞作品に選定した。受賞作品はNHKサービスセンターが制作する壁掛けカレンダーと卓上カレンダーのほか，受信報告に答えるためのベリカードや絵はがき，NHKワールド・オンラインのダウンロードサービスに使用した。カレンダーは，各国大使館・領事館，海外の放送局，日系人協会，日本人学校などに配布し，NHKワールドのPRを行った。

（３）NHK出版語学テキストへの広告出稿

国内の英語学習者へのPRとして，17年２月号と４月号の英語テキストを中心に語学テキストに広告を出稿した。

◇モニター

16年３月現在，テレビ番組モニター31か国197人，ラジオ番組モニター29か国49人，ラジオ技術モニター42か国54人という体制である。

Ⅱ．反　響

◇反響の周知と活用

（１）投書数

NHKワールド・ラジオ日本への16年度の郵送・Eメール・SMS（ショートメッセージサービス）による投書数は３万6,103件で，15年度と比べて，4,072件の減少となった。

16年度のNHKワールドTVへの海外からのEメール等での投書数は，１万513件となり，15年度と比べて764件の増加となった。

（２）反響の活用

「NHKワールドTV宛　Eメールウイークリーリポート」「NHKワールド・テレビ／ラジオ　モニター＆反響メモ」を週１回，「NHKワールド・ラジオ日本投書概況」「NHKワールド・ラジオ日本モニター報告」「NHKワールドTV　モニター報告&視聴者反響」を月１回まとめ，国際放送局の各番組担当者にフィードバックして，放送の質のさらなる向上に役立てた。

技術・施設

Ⅰ．テレビの送受信

NHKワールドTVは，英語による「外国人向けテレビ国際放送」で，09年２月に専用スタジオを設け，24時間毎正時，ニュースを放送している。09年12月には，標準画質の放送に加え，ハイビジョンによる放送も開始した。放送はノンスクランブル（無料）で，インテルサット社の３つのCバンド衛星を使い，ほぼ全世界をカバーしている。受信には直径2.5メートル程度のパラボラアンテナが必要なため，小型のアンテナで受信できる衛星（Kuバンド）や地域のCATV，IPTVなどを通じて，より簡便に視聴できるよう受信環境の整備を進めている。16年度末には，30機の衛星でおよ

そ160か国のエリアをカバーし，約２億9,000万世帯で視聴が可能となった。

NHKワールド・プレミアムは，NHKワールドTVと同じ３つのCバンド衛星で，海外のCATVや衛星放送局などの放送事業者にNHKの番組を有償で配信し，各事業者が提供する日本人向けのテレビチャンネルである。

テレビジャパンは北米NCMA社（NHK Cosmomedia America，Inc. ニューヨーク）が，JSTVは欧州NCME社（NHK Cosmomedia Europe Ltd. ロンドン）が，衛星（Kuバンド）等を使って91年から実施している有料の邦人向けサービスである。NHKや民放の番組にスクランブルをかけて放送している。

NHKワールド・プレミアムとテレビジャパン，JSTVを使って，１日およそ５時間，ノンスクランブルの「邦人向けテレビ国際放送」を実施している。

Ⅱ．ラジオの送信

16年度も，NHKワールド・ラジオ日本は，八俣送信所からの短波放送および海外中継局からの短波・中波・超短波による送信を行うとともに，衛星による放送を実施した。また，17年３月26日，オーストリア中継局（短波）からの中継放送を開始した。

○八俣送信所（短波）

送信機６台（300kW：５台，100kW：１台），アンテナ18式を利用し25方向で送信。ラジオ国際放送を，１日46時間40分送信した。

○衛星による送信

衛星７機（インテルサット19，20，21号機，バドル４号機，ナイルサット201号機，ユーテルサット・ホットバード13B号機，テルスター18号機）を利用した衛星ラジオ放送を行った。

○海外中継　（※単位　時間：分）

周波数帯	海外中継	1日当たりの放送時間※	放送地域
短波	アメリカ中継	2:30	中米，南米
	イギリス中継	0:30	欧州（前期のみ実施）
	ウズベキスタン中継	1:50	中東・北アフリカ，南西アジア
	オーストリア中継	0:30	欧州（2017年３月26日開始）
	シンガポール中継	4:15	東南アジア，南西アジア
	ダバヤ中継	0:45	〈前期〉南西アジア
		1:15	〈後期〉南西アジア・欧州
	ドイツ中継	4:00	中東・北アフリカ向け
	パラオ中継	2:00	東南アジア
	バチカン中継	0:30	アフリカ（西部）
	フランス中継	10:00	中米，中東・北アフリカ，アフリカ南部・中部・西部向け
	マダガスカル中継	2:45	アフリカ東部・南部・西部，南西アジア
	南アフリカ中継	0:30	アフリカ中部
	リトアニア中継	0:30	欧州
超短波	アフガニスタン中継	0:30	中東・北アフリカ（アフガニスタン）
	イラク中継	0:30	中東・北アフリカ（イラク）
	インドネシア中継	0:45	東南アジア（インドネシア）
	タンザニア中継	0:30	アフリカ（東部・タンザニア）
	バングラデシュ中継	0:45	南西アジア（バングラデシュ）
	ヨルダン川西岸中継	0:30	中東・北アフリカ（ヨルダン川西岸）
中波	タジキスタン中継	1:45	中東・北アフリカ，南西アジア
	モスクワ中継	1:00	欧州（モスクワ市）
	リトアニア中継	1:00	欧州

※「放送時間」の対象期間は，前期：2016年３月27日10:00～10月30日10:00，後期：2016年10月30日10:00～2017年３月26日10:00（いずれも日本時間）（オーストリア中継を除く）